有島武郎全集

第十卷

有島武郎全集

第十卷

筑摩書房

有島武郎全集第十卷
昭和五十六年十月三十日　初版發行

著　者　有島武郎
發行者　布川角左衞門
發行所　東京都千代田區神田小川町二ノ八
筑摩書房
郵便番號　一〇一―九一一
電話　〇三(291)七六五一(營業)
〇三(294)六七一一(編集)
振替　東京六―四一二三

印刷　株式會社精興社
製本　株式會社鈴木製本所

0395-70910-4604　Printed in Japan

有島武郎全集　第十卷

目　次

隨意錄　參號……3
（明治二十四年九月二十二日——明治二十五年三月二日）

觀想錄　第一卷……27
（明治三十年四月二十七日——明治三十一年十一月十二日）

觀想錄　第二卷……109
（明治三十一年十二月二十七日——明治三十三年十一月十二日）

觀想錄　第三卷……181
（明治三十三年十二月九日——明治三十六年二月十二日）

觀想錄　第四卷……255
（明治三十六年二月十三日——五月二十五日）

觀想錄　第五卷……380
（明治三十六年六月十六日——明治三十七年三月二十九日）

觀想錄　第六卷……458
（明治三十七年七月十九日——八月十八日）

觀想錄　第七卷……486
（明治三十七年八月二十九日——十月十六日）

觀想錄　第八卷……515
（明治三十八年一月一日——明治三十九年七月一日）

〔日記斷片〕〔明治三十四年〕……541

〔手帖一〕〔明治三十四年〕……548

〔手帖二　軍隊手帖（一）〕〔明治三十五年〕……570

〔花賣日記〕……603

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

観想錄〔譯〕……607
解　題……613

日記　一

隨意錄　參號

易老少年、成難學、不可輕一寸光陰
不覺未地糖春草夢　階前梧葉既秋聲

廿四

九月廿二日。赤白柔道仕合アリ。余ハ赤ニテ水野宜君ト仕合ヲナシ引分ケトナリタリ。而シテ赤白一帶ノ勝負ハ赤ノ勝ナリキ。而シテ赤ノ大將ハ山岡勉吉君、又白ノ大將山內文太郎氏ナリキ。而シテ道場ハ通常ヨリ美麗ニシテ、場內ノ廻リニハ旗ヲメクラシ、入口ニハ國旗ヲ叉ニシテ最ト盛大ナリキ。此時ハ三本以上ノ勝者ニ賞美ヲ賜ル。其人數ハ十一名ナリキ。今左ニ柔道仕合者ノ姓名ヲ擧グ。

○紅組 柔道組合者之名	白組
山岡勉吉	山內文太郎
山田良之助	青木楠吉
本庄恕男	杉梅三郎
丹羽氏正	松平直浩
四條十郎	高島己作
細川健麿	園田賦雄
山田久雄	市橋丁丸
安藤長造	三上榮太郎
一柳惠三	五辻治沖
菊地武麿	香渡常盤
有田秀造	山口豐男
前田利定	成瀨美雄
時任靜三	松平直敬
田村不顯	仙石雅次

○紅組 賞美ヲ受ケシ人名	白組
山岡勉吉	香渡常盤
時任靜三	石川直三郎
細川健麿	押小路實英
吉井謙次郎	竹園康長
村井　薫	
北條謙吉	
倉橋泰昌	

○紅組 缺席者	白組
山田久雄	五辻治沖
有田秀造	成瀨美雄
前田利定	松平直敬
黑屋久三郎	本多忠吉
葉室長則	東　胤錄

黑屋久三郎　本多忠吉
葉室長則　北河原公平
永井利喜麿　藤本信吉
比志島義弘　東　胤錄
外山光庸　平松時陽
松方虎雄　久我常通
黑川幹太郎　渡邊大作
小崎猛彦　正親町
小笠原桑四郎　大關鈔
林　直衞　北畠克通
酒井拾吉　有馬寅二
宮口竹雄　宮島可二郎
裏辻彦六郎　京極高致
大原　終　小笠原健五郎
土方雄則　西高辻信卿
宮島祝三　押小路實英
吉井信寶　堀河親清
本多副恭　中村　茂
加藤亮一　木下俊義
村井　薫　奥田直恭
板倉勝輝　萬里小路通次
豐住秀人　水埜　宜
吉井謙次郎　溝口直亮
渡邊　泉　中川良長
有島武郎　吉井信照
北條謙吉　吉井仲介
倉橋泰昌　岩倉具張
水埜　素　水埜　央
赤松喬二　戸田忠庸
岩倉具幸　河村晴吉
內藤　薫　大河內正敬
松方乙彦　松平賴孝
間部詮信　西村孝太郎

比志島義弘　平松時陽
外山光庸　久我常通
松方虎雄　渡邊大作
小崎猛彦　正親町
林　直衞　大關鈔
酒井拾吉　北畠克通
裏辻彦六郎　有馬寅次
大原　定　宮島可次郎
土方雄則　京極高致
宮島祝三　吉井仲介
本多副恭　岩倉具張
板倉勝輝　大河內正敬
內藤三郎　松平賴光
水埜　素　西村孝太郎
赤松喬二　高崎益彥
岩倉具幸　西鄕從德
間部詮信
森　英
松平賴忠

合二十四人　仝二十一人

森　　英　高崎益彦
松平頼忠　竹園康長
　　西郷從德

九月廿三日。秋季皇灵サイ。雲天。此日家ニ歸ル。

九月廿六日。晴天。土曜日。家ニ歸リ暫クシテ佐山氏來遊シ余家ニ一泊ス。其夕余ハ宿ニ歸リ翌日日曜日朝早ク歸家ス。雲天ナリキ。夫ヨリ佐山氏、余及弟壬生馬ト共本所區横網町一丁目五番地藤堂家内津田氏ニ至リ暫ク金次君ノ歸ルヲ待ツ。暫クニシテ氏歸ル時朋友ヲ一人連レ來タレリ（朋友ノ名ハ水埜）其人ト共ニ暫ク旭倶樂部ノ議ヲナシ水埜氏歸ル。夫ヨリ皆中食ヲナシ、津田氏ヲ出デ渡シヲ渡リテ淺草迄デ至リ、見セ物等ヲ見、二時十分過キ頃歸ル。其時弟及敬次氏ハ車ニテ先ヘ歸リタリ。余等ハ厩橋ヲ渡リ藤堂高亮氏ノ家ニ行キ、夫ヨリ運動會ヲナス學校ヲ見ニ行キ、歸ル𠀋ニ車ニ乘ラントシ二人引ノ來ルヲ待テ之ニ乘ル。金次氏ハ年十六、余ハ十三、英男君モ余ト同年ナレバ實ノ二人引ニテモ乘レザルナリ。然レドモ無理ニ之ニ乘リ行クヿ一丁計リニシテ、余ノ乘レル車夫他ノ車夫ニ之ヲ問ヒシニ他ノ車夫曰ク、夫ハトテモ無理ナリ此車ニ此ノ如キ大ナル人ガ三人モ乘レバ必ズ巡直ノ御トガメナルベシト云ヒシニゾ、余等ハ驚キ忽チ車ヨリ下リ錢モ費ハズ行キシマイシハ最ト氣ノ毒ナリキ。夫ヨリ津田氏ニ歸リ種々ノ談話ヲナス内夕食モ出來シニヨリ夕食ヲナシテ、タゞチニイトマヲ乞ヒ津田氏ヲ出デ、柳澤氏ト共ニ途中迄デ來リテ柳澤氏ニ別レ、車ヲヤトイテ終ニ家ニ歸レリ。夫ヨリ佐山氏ハ六時五拾分ノ滊車ニテ横濱ニ歸リ、余モ又學習院ニ歸リテ其日ヲ終ヘタリ。

源滿仲　源頼光　源頼信　源頼義　源義家　源義光

源爲義　源義朝　源爲朝　源義平　源朝長　源頼朝

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

源範頼　源義經　源頼政　源義仲　大石良雄

埋木の花咲くこともかなりしに
　身のなる果ぞあわれなりけり　源　頼　政
心なき身にもあわれはしられけり
　しぎ立つさわの秋の夕暮　西　行　法　師
いかにせん頼むかげとてたちよれは
　なほそでぬらす雨のしたつゆ　藤　原　藤　房
ものゝふのよろいの袖をかたしきて
　まくらに近き初雁の聲　上　杉　謙　信
みがき得て國のたからとなるものは
　人の心の玉にぞありける
弓矢とる身にはあらねと一筋に
　立てし心のすへはかわらじ　僧　月　照
身はたとへ武藏の野邊に捨つるとも
　とゝめおかまし日本たましい
親を思ふ心にまさるおや心
　今日のおとつれ何ときくらん　吉　田　松　陰
我を人とひろしめてはすめらきの
　玉の御聲にかゝるうれしさ　高　山　彦　九　郎

明治廿四年九月廿九日。靴出來上リ持チ來タリタレドモ何分大キクテハケザルヲ以テ再ビ之ヲ造リ直サセタリ。今日ヨリ算術ノ開立ヲナシタリ。

三種之神器ノ由來

天叢雲之劍ハ「スサノヲ」ノ尊ノ出雲ニ於テ九頭龍ヲウタレシ時其尾ヨリ出デシ者ニテ、其ㄓ叢雲四方ニ起リシヲ以テ其名アリ。

八咫鏡ハ八手之鏡ト云フ。意味大ニシテ立派ナリト云意味ナリ。而シテ其造神ハ日凝姥（ヒコリヒメ）ノ尊ト申ス。

八阪瓊曲玉ハヤサカノ曲玉ト申シテ、其意味ハ赤クシテ立派ナル光リタル玉ト云フ。其造神ハ天明玉命ト申ス。

明治廿四年十月三日。土曜日。晴天。此日晝ヨリ埜崎君ノ所ニ行キ夫ヨリ種々ノ遊ビヲナシテ中川君ノ所ニ至リ種々談話ノ末四時廿分歸舍ス。

百傳授

（五十八）　あかぎれ直し

きめの惡しき人は如何にするもあかぎれを全治するとかたし。姑息の法にて一時凌きをなすの外なきなり。そは、グリスリンを二倍の水に混合し手足に摩り込むなり。

（五十九）　小豆早煮別法

小豆一升に竹の葉一枚を入れて煮る時は早く煮ゆべし。

（六十）　餅の早消化法

餅の食ひすぎて苦む人ある時はむぎのもやしをせんじ服さしむべし。

（六十一）　石油火止の法

石油一升に、にがり（鹽の水）四合、椿の葉十匁、青松葉廿匁、明礬（バン）五匁、烏賊の粉五分を混じ器に入煎じるなり。葉の赤色に變じ明ばんの解けたるを度とし其水を用ゆるなり。（其葉は直にとりのけざれば其效なし）

（六十二）　硯水ノ凍ラヌ傳

清酒（サケ）ヲ以硯水トナセバ凍ルヿナシ。

（六十三）　雪中ノ旅

足袋ト足ノヒラノ間ニとをからし三本入レヲクベシ。不思議ニ寒サヲ知ラズ。

（六十四）　手ニ付キタル石油

ヲ除クニハ茶又ハ茶ガラヲ燻（クス）べ其烟ニテ手ヲアブルベシ。

（六十五）　ナマヅの藥

水又ハ湯ニテナマヅノ部分ヲ滋シ指サキニテ少シノグリサビーンヲ塗ルヿ朝夕二度タルベシ。大低ハ三四回ニテ全治ス。

（六十六）　耳ダレヲ直ス藥

オレーフ油ヲ綿ヘシメシテ耳ノ中ヘサスベシ。然ル後スポイトヲ用ヒ水ニテ洗フベシ。

（六十七）　タムシヲ直ス藥

ヨヂユム一ゲレン、沃度加里一ゲレン、アルコヲル一ヲンスヲ混合シ、タムシノ上ニヌルベシ。

（六十八）　齒ノイタミヲ直ス藥

ラウダニユムヲ綿ニシメシテ齒ノイタム所ヘ入ルベシ。又葱ヲ五分程ノ長ニ

切リ、イタム齒ニテカミシムルモヨシ。

（六十九） 蚤除ケノ傳

胡妥子（コスキシ）ヲ水ニテ煎シ下着夜着等ニ毎日カ隔日ニフリカクレバ、ノミ、生スルヿナシ。

（七十） 鼠食ハズ糊ノ傳

並ノ糊ノ中ヘコンニヤク玉ヲ少シ加ヘテ張ベシ。

（七十一） 銅器ノ青サビヲ除ク法

銅又ハカラ金ノ器物ニ生ジタル青錆ハ、米ノリノ强キモノヲ付ケ、其上ニ紙ヲ張リ、日ニ干シ、其後紙ヲ剝ケバ錆ハ糊ニウツリテ落ツベシ。

（七十二） 水ノヨシ惡シヲ見ル傳

水ヲ小茶碗ニ入レ、ホウシヤ一ト切ヲ入レ試ムベシ。其水濁レバアシク澄ミ居レバ良水ナリ。

（七十三） 蚊ヲ除ケル傳

苦楝ノ花ト栢ノ實ト菖蒲ヲ同シ分量ヲ細末ニシテ燒クベシ。

（七十四） 醋ノカビヌ傳

醋ノ中ヘ燒鹽ヲ少シ入レ置ケバカビ生セズ。

（七十五） 火傷ノ藥製法

ウドン粉ヲヤケドノ上ニ厚クヌリ、其上ヲ木綿ニテ包ミ置クベシ。

（七十六） ウチ身卽治ノ傳

セウカノ汁ヲ酒ニマゼ、ウドン粉ヲ煉リ、ウチ身ノイタム所ヘツケ置クベシ。

（七十七） 漆ニカブレタルヲ直ス傳

幅一寸程ノ刷子（ハケ）ニ荏ノ油ヲツケ、一日ニ三四回ヅヽカブレタル所ニヌルベシ。

（七十八） 酒中花ノ製法

山灯心（トウシン）ト云フ木ノ心ニテ色々ノカタチヲ作リ、ウスノリヲツケテヨクタヽミツケ、天日ニ干シテ置キ、酒ニ浮ベル時ハヨク其形アラハル。

十月四日。晴天。此日堀河君ノ所ニ遊ビニ行キ、八時半頃歸宅シ暫ク休ミ、早食ヲ食ヒテ日カゲ町ノ大塚ニ至リ靴ヲアツラエ、夫ヨリ銀座等諸方ヲ歩キテ家ヲ見ニ行キ、家ニ歸リシヲ北鄕君病氣ニテ打臥シ居給ヒケル。夫ヨリ夜食ヲナシ、服ヲ着カヘ人力車ニテ幼年舍ニ歸リタリ。

十月八日。晴天。木曜日。午前五時半起床。 皇太皇后陛下京都ヘ御發輦ニ付、六時朝食ヲナシ、幼年舍學生ハ幼年舍ノミ隊ヲ組ミ、六時半門ヲ出デヽ青

山御所ノ傍ニ待チ奉ル。暫クニシテ、皇太子殿下御馬車ニテ青山御所ニ御出デアリタリ。七時廿分、皇太皇后陛下御出門。皆一同敬禮ヲナス。夫ヨリ歸舍ス。時ニ八時十分前ナリ。放課後ヨリ丙ノ組卽チ我々ノ級及ビ陸海軍豫科ノ口頭演習ナリシカバ余ハ之ヲ聞キニ行キタリ。其ナセシ人名及ビ問題ヒヒヤウ等左ノ如シ。

自重心ノ必要	安藤長造	草稿ヲ持ツ
航海業ノ隆替	花房太郎	仝
「ナポレヲン」ノ傳ヲ讀ム	比志島義松	仝 五分間
航海業ノ隆替	園田賦雄	草稿ナシ 九分間
豐公征韓の話	平松時陽	草稿アル 十二分間
仝	眞木茂	仝 六分間
「ナポレヲン」ノ傳ヲ讀ム	埜崎善藏	仝 六分間
豐公征韓ノ話	三上榮太郎	仝 七分間
仝	松方虎雄	草稿ナシ 十一分間
航海業ノ隆替	香渡常盤	草稿アル 十八分間

其比評ハ左ノ如シ。

元寇ノ如キ著シキ時ニアマリ草稿ヲ見ルベカラズ。シセイ話方ハヨロシ。

安藤長造

演說ノ時イソグ故サクザツスル。又例ニ始メヨリ西洋ノ例ヲヒクハ宜シカラズ。始メニコトハルベシ。

花房太郎

形容ノ言葉自然出ルナラヨロシイガアマリアリスギル。言ノゴキガ上ル。

比志島義松

少シ言ガソヒヲ。而シテ論ノ立テカタノ宜シキハ今日一二等ノ出來ナリ。

園田賦雄

事實多アヤマル。一二ノ例ヲ擧グレバ加藤淸正ガ楊子江ヲ渡ル、又三韓ヨリノ使者ヲ斬ル等ハチガウ。而シテヲチツキ能ク述ベル所ヨシ。

平松時陽

体ヲウゴカシ机ニ手ヲ上ル。ゴビノシリガ上ル。ゲンカクデナイ。

眞木茂

トキ方ハ誠ニヨシ。而シアマリ草稿ヲ見スギル。又机ニ手ヲカケテ後ニソル。

埜崎善造

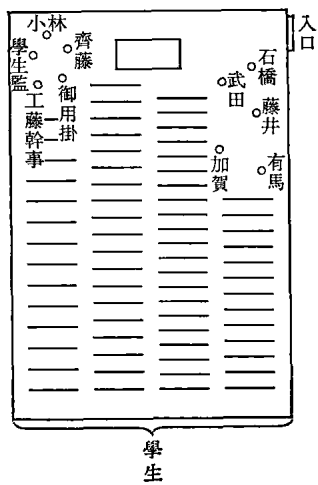
草稿ヲ見スギル。言ノゴキガ荒イ。事實ニヲイテモ所ヒマチガウ。言ノ用ヒ方モ正シカラザル所アリ。

三上榮太郎

能ク事實ヲシラベ草稿ヲ見ナイノハヨロシイ。而シ文章ガキレギレデ聞ク人ガマチドヲシイ。少シ熱スル樣ニ。　　松方虎雄

論ノ立テカタ、又ヲチツク所ヨロシ。而シ其申ノ事實ニツイテ、之ヨリ大切ナル事實ノアル時ハ能ク考フベシ。　　香渡常盤

又今日ノ口頭演習開場ハ二年級乙卽チ余等敎場ナリ。而シテ圖左ノ如シ。



明治廿四年十月十日。晴天。土曜日。此日靴出來タリ。

仝十月十日。土曜日。曇天。此日晝後ヨリ埜崎氏ノ所ニ至リ夫ヨリ馬場氏ノ所ニ至リシニ、馬場氏不在ナリケレバ再ビ埜崎氏ノ所ニ至リテ種々ノ遊ビヲナシ、四十分ニ埜崎氏ヲ出デ以テ歸舍セリ。此時余ト一諸ニ行キタリシ人々ハ吉井仲助氏、內藤三郎氏ナリキ。

仝十月十一日。日曜日。晴天。此日麴町通ヲ通リテ家ニ歸ル。北鄕氏病氣ナリキ。晝後ヨリ柳澤金次氏及ヒ津田敬二郎氏來訪。夫ヨリ流酸ヲ取リ、夫ヨリ池ノ向ニ的ヲ立テ射的ヲナセリ。暫クシテ二祖母及ビ妹、築地門ゼキヨリ歸ル。夜食ヲナシ車ニテ舍ニ歸ル。

十月十三日。晴天。火ヨヲ。此日輔仁會演說部例會開會アリタリ。其出題者ハ左ノ如シ。

習慣ノ勢力	柳澤保惠
美學美術、文學小說	內田周平
社會的勢力ノ隨勢	吳文聰
鐵砲傳來ノ話	山田良之助
文弱ノ弊ヲ述べ併テ同胞諸君ニ望ム	小崎猛彥

柳澤君ハ缺席及ビ山田君ハ時間ナキ故ヤメ。

十月十六日。金曜日。晴天。此日輔仁會總會アリテ余等モ出席シタリ。

十月十七日。晴天。土曜日。此日ハ輔仁會及ビ幼年舍ノ遠足アリタリ。輔仁會ハ石川村、幼年舍ハ二子迄。而シテ余ハ行カズシテ家ニ歸レリ。

十月十八日。此日朝ヨリ制服ヲ着シテ運動會ニ至ル。行ク道ニ津田氏ニヨル。

十月十八日。日曜日。晴。此日晝後ヨリ本所ノ尼寺ニ於テ旭倶樂部運動會アリタリ。余旗取リ競走ニテ一等ヲ取リタリ。夫ヨリ津田氏ニ至リテ晩食ヲナシ以テ家ニ歸ル。

十月廿五日。日曜日。晴天。此日家ニ歸ル。時ニ埜村氏ノ老母横濱ヨリ來ル。夫ヨリ家ニ一泊シ翌朝家ニ歸ル。

十月廿八日。水曜日。雨天。此日朝六時三分前頃ヨリ非常ニ大ナル地震アリタリ。

百傳授

朝顏ノ花ヲ思フ時咲カス

庭前ニ咲ケル朝顏ハヒル頃迄保タスモノナリ。シカルヲ、ヒルナリ晩ナリ好キノ時ニ咲センニハ、先ツ明朝ヒラクベキ蕾ノ多クアル蔓ヲ切リトリテ井戸ノ中ヘツルシヲクナリ。一二日スギテモヨロシ。サテ客人デモ招待セント思フ時、其時分ヲ見計リテ井戸ヨリ出シ生筒ニ水ヲ入レサシヲカバ直ニ開クベシ。

貝殼ニ文字ヲ現ハス

アハビ貝殼ナレバ其穴ヲヨクフサギ墨ノ濃キ汁ニテ好ミノ文字ヲ書キ、醋ヲツギテ二日間モヲカバ天然ノ文字ノ如ク現ハル。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com